

# 情報処理 II 第2回 計算機の利用についての 注意事項

桂田 祐史

1992年5月6日

前はかなり混乱した感があるので、前々回に話したことも含めて簡単にまとめておきます。

## 1 情報科学センターでのアカウント

本日まで全員のアカウントが用意されたはずですが。

ユーザー名<sup>1</sup> (“login: ” に対して入力する文字列のこと) は、‘ee’ + 入学年度最下位1桁 + 学籍番号(4桁) という仕方で機械的に作られています。例えば 1991年度入学の学籍番号1234の人は ‘ee11234’ がユーザー名となるはずですが。

初期パスワードは、昨年度センターのアカウントを持っていた人は昨年度末のパスワードのまま、そうでない人は ‘manage2’ となっています。後者の場合は安全のため yppasswd コマンドを使ってパスワードを変更しておきましょう。

## 2 情報処理 II 向けの環境

(前回説明しましたが、今回初めてアカウントをもらった人には必要なので、念のため)。

- ログイン直後 (まだ OpenWindows も起動しないうち) に

---

<sup>1</sup>ログイン名ともいいます。

```
~re00018/syori2/bin/settei92
source .cshrc
```

とすると情報処理 II 用に用意されたコマンドが使えるようになります (これは一度だけ実行すればよく、前回済ませた人は今回は必要はありません)。この作業に成功したかどうか調べるには

```
kakunin92
```

とします。うまく出来ていたら次のように表示されるはずです。

```
alias OK (4/22/92)
path (~re00018/syori2/bin) OK
```

- 情報処理 II 用のコマンドとしてしばしば使うものに getsample があります。このコマンドを実行すると、こちらが用意した、その回の例題に関係したファイルをカレント・ディレクトリにコピーします。
- 図を描くプログラムを走らせる時は必ず OpenWindows を起動しておく必要があります。

### 3 必要な計算機の知識

「情報処理・演習」程度のこと。より具体的には次の4点 (特に最初の3つ) です。必要ならば自習して補いましょう。

UNIX の基本操作 ファイル、プログラミング言語等の概念を理解して  
ls, cp, rm, cat, f77 等のコマンドが使えること。

エディター nemacs あるいは vi 等のエディターを使ってテキスト・ファイルの作成・編集が出来ること (特にプログラムの作成に必須)。

Fortran 参考書を見ながらでもいいから Fortran<sup>2</sup> プログラムの読み書きが出来ること (例題プログラムや参考書に掲載されているプログラムを読んで理解し、自分の計算に必要な修正を加える作業が出来る程度に習熟していること)。

---

<sup>2</sup>レポートの問題を解くためには Fortran 以外の言語を使っても構いません。

OpenWindows 起動・終了、kterm の利用程度のごく簡単なことだけで  
良い(図を描くために起動しておくことが必要なだけなので細かい  
知識は必要ない)。

絶対必要というわけではないですが、習得しておくことが勧められる  
ものとして、

- ディレクトリィの利用法
- 入出力のリダイレクション、パイプ

などがあります(いずれも UNIX の参考書に解説してあるはず)。

## 4 質問・相談

桂田は 6706 号室あるいは 6701 号室にすることが多いです(金曜 10  
時から 12 時まではほぼ確実に 6701 号室にいます)。電子メールのアド  
レスは re00018, mk@math.meiji.ac.jp のいずれでも届きます。

問題 1-5 の解答図(一例)。

